

# リユース部品の利用はトレンド

損保業界、整備業界、そしてリサイクル部品業界が同じテーマに動き、リユース部品利用拡大に向けた議論をスタートした。リユース部品の使用環境が大きく変わろうとしている。市場拡大につながるのか、日本自動車リサイクル部品販売協議会の清水信夫会長に新たな流れへの期待を聞いた。

(青山 信一)

リサイクル部品、リユース部品の市場環境が変わり始めたようだ。

「リユース部品の国内市場は修理部品全体の4、5%に過ぎない。車両買い取りから始まる事業者間の競争は激しさを増しているが、理屈抜きでリユース部品全体のパイを伸ばすことが重要な時期だ。その中で損害保険業界や整備業界がリユース部品の利用を進めようとキャンペーン

## 日本自動車リサイクル部品販売協議会

### 清水 信夫会長に聞く



#### 品質、環境両面で態勢完了

#### 損保、整備との対話始まる

部品代金を圧縮したいというところとのなか。

出が増え続ければ、保険料に跳ね返り、車離れを加速するかもしれない。また板金車

質保証に関しては業界で統一し、万が一のことがあれば日整連が定めたレベルシートを基準に保証するようにした。CO<sub>2</sub>

「自動車の販売に例えるなら新車と中古車の違いのようなものだ。新車と違って中古車は、車の品質まで踏み込んで熟知していないと商売にならない。リユース部品の取り扱いも中古車

と似た。フェンダー一枚を交換しようとするば、時間ばかりかかって儲からないと思うかも知れないし、反対にドアのように組み付けた状態の部品、アッシーを利用すれば、交換だけで修理ができる。われわれ業界として何が何でも中古部品を使ってくれというのはない。いろいろなことがあるので利用する側もプロとしてリユース部品を熟知し、その使い方を見極めて利用拡大してほしい」

「10月のリサイクル月間で損保業界、整備業界とともにリユース部品の利用促進キャンペーンをするのを考えている。今後、話し合っていくことは多岐にわたる。相手の話を聞き、リサイクル部品利用を促進するたため、われわれ業界側も改善すべき点はあるだろう。お互いの勉強の場として情報共有を進めるとしてリユース部品を使うメリットを拡大したいと考える」

インを始めている。直接、エンドユーザーに触れる業界がお客様にリユース部品を勧めてくれる。心強いと思う反面、業界としての責任も重い」

「車体整備、修理業務の中で品を使った修理がいつまでも続くとは思わない。部品代金の支

「確かに業界として説明責任を果たす努力を重ねてきた。品

「一緒に付いたばかりで、本格的な話し合いはこれからだ。これまで損保業界、整備業界の方

「10月のリサイクル月間で損保業界、整備業界とともにリユース部品の利用促進キャンペーンをするのを考えている。今後、話し合っていくことは多岐にわたる。相手の話を聞き、リサイクル部品利用を促進するたため、われわれ業界側も改善すべき点はあるだろう。お互いの勉強の場として情報共有を進めるとしてリユース部品を使うメリットを拡大したいと考える」

「品質保証の統一やCO<sub>2</sub>排出削減効果の見える化が、効果的だったのか。

「確かに業界として説明責任を果たす努力を重ねてきた。品

「一緒に付いたばかりで、本格的な話し合いはこれからだ。これまで損保業界、整備業界の方

「保険事故での車両修理はこれまで新品部品が当たり前のように使われてきた。長期間使用する車が増加する中で、新品部品を使った修理がいつまでも続くとは思わない。部品代金の支

「品質保証の統一やCO<sub>2</sub>排出削減効果の見える化が、効果的だったのか。

「一緒に付いたばかりで、本格的な話し合いはこれからだ。これまで損保業界、整備業界の方

「10月のリサイクル月間で損保業界、整備業界とともにリユース部品の利用促進キャンペーンをするのを考えている。今後、話し合っていくことは多岐にわたる。相手の話を聞き、リサイクル部品利用を促進するたため、われわれ業界側も改善すべき点はあるだろう。お互いの勉強の場として情報共有を進めるとしてリユース部品を使うメリットを拡大したいと考える」